

パンチングメタルでタイ初進出

ウチヌキが新工場稼働

【タイ・バンコク発】伊藤健「大手パンチングメタルメーカーのウチヌキ（本社・神奈川県綾瀬市、社長・中尾健太郎氏）はこのほど、タイに工場を新設、稼働した。日本のパンチングメタルメーカーがタイで製造拠点を作るのは初めて。タイ国内のほか、将来的には東南アジア圏のパンチングメタルの需要を捕捉する。25日に現地会社「ウチヌキ・インダストリー」の開所記念式典を開催、現地取引先や金融機関など関係者らが参加した。

東南アジア需要を捕捉

ウチヌキ・インダストリー 場所はバンコク東郊サムット
（社長・岩佐昌宏ウチヌキ常務） ポラカーン県内のTIP工業
務は2015年7月に設立、団地内に位置する。 工場面積は1600平方
（4基の自動ライン）、60ト 大月30トを見込める。加工素

材は鉄鋼、ステンレス、アルミのほか樹脂も可能だ。プレス設備の大半はウチヌキ福島工場から移設しており、現地スタッフも同工場で研修を実施。品質面では「ハード面、ソフト面とも日本と同等レベルの生産が可能」（岩佐社長）としており、現地材との差別化を図って需要を捕捉する狙いがある。タイでは、道路や鉄道などインフラ整備の需要が増えており、自動車や弱電などの工業用製品の製造拠点でもあり、パンチングメタルの需要は増加傾向にある。販売は14年に設立した販社「ウチヌキ・タイランド」（社長・岩佐昌宏氏）が行い、建材向けのパンチング製品から、同社が得意とする機械関連向けの微細孔（直径1ミ以下）製品まで、主に日系企業やローカル企業へ拡販を進める。式典で挨拶に立った中尾社長は「本日が当社としてグローバル進出へのスタートとなる」と述べ、「タイ、アセアン地域で、最高のパンチングメタルメーカーを目指したい」と決意を述べた。

記念式典に先立って、タイの仏教式典が行われ、3人の僧侶による祈りが捧げられた。また、記念式典に引き続き工場見学会を開催。その後、記念パーティーも開催され、盛況のうちに散会した。



新工場の外観①と、開設記念式典のテープカット（左から中尾社長、岩佐常務、シリポン取締役）ウチヌキ・タイ

